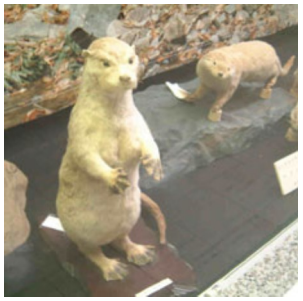
NPO地球の緑を守る会/〒158-0097世田谷区用賀4-34-12グリーンハウスNo.2—231号/Tel:03-5717-9358Fax:03-5717-9359/ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞhttp://midori.mond.jp/

フォレストニュース

植林が地球を救う
平成23年（2011）2月10日
No. 38
発行　高津啓洋

絶滅種と絶滅危惧種再発見の種

最終目撃例から50年を経過すると絶滅リスト入りします。とわいえ、ニホンカワウソは50年を経ていませんが、1974年からは発見例がありません。ニホンオオカミは1905年1月23日に、奈良県東吉野村鷲家口で捕獲された若いオス（後に標本となり現存する）が確実な最後の生息情報から50年を経過し絶滅しています。



今回の話題は、絶滅種であった「クニマス」が７０年ぶりに発見されたことです。昨年の12月15日、日本固有の淡水魚「クニマス」を手にする京都大の中坊徹次教授がテレビで大写しになっていました。

環境省のレッドリストに掲載され、絶滅したとみられていた秋田県田沢湖の固有種「クニマス」が、山梨県の西湖で生存していたことが、調査で分かりました。クニマスの生息確認は７０年ぶりで、レッドリストに絶滅種として記載された魚が再発見されたのは初めてです。

クニマスはサケ科の淡水魚。体長は最大で約３０センチで、食用の高級魚として知られていました。昭和１０年代、田沢湖周辺の発電施設の導水工事で強酸性の水が流入し、湖水が酸性化したため死滅。そのまま絶滅したと考えられていました。

富士五湖の一つ西湖で確認された個体はクニマスとエラや消化器官の形が一致し、遺伝子解析でも同種と裏付けられました。西湖は、昭和１０年代に、クニマスの卵を放した経緯がありました。

発見のきっかけは、中坊教授の知人で東京海洋大学客員准教授のタレント「さかなクン」にクニマスの絵を描くことを依頼したこと。参考に近縁種の西湖のヒメマスを取り寄せた際、特徴の違う魚が届き、中坊教授らが昨年３月ごろから調べたところ、クニマスと判明しました。

絶滅のはずが！　山形の雪山に現れた「幻のニホンジカ」　今年の1月29日、ニホンジカを目撃したのは、山岳会のメンバーで大江町職員の庄司光幸さん（３２）庄司光幸さん。山形県大江町の大頭森山です。

山形県内では絶滅したと考えられていた「ニホンジカ」が大江町の山中で目撃されました。地元の大江町山岳会のメンバーがトレッキング中に偶然遭遇したもので、真冬の“珍客”に山の達人たちもびっくり。

３メートルほど積もった雪をかき分けて沢伝いに歩いていた午前１１時半ごろ、知人が「何かいる」と庄司さんに声をかけてきました。雪崩を気にして上を見ていたが、視線を戻すと大きなお尻が逃げていくのが分かりました。

最初は地元でよく見かけるカモシカかと思ったが、足が長く、長い角を持っていたので、「シカがいるわけない」と思いながらもシャッターを切ったといいます。

絶滅危惧種ティグレと遭遇

パラグアイに移住し、植林の管理をも担当されている飯野貞夫元理事夫妻は、パラグアイ川をボートで移動中に、「ティグレ」と遭遇。お互いに目と目を合わせて、じっと見あったとのこと。

ティグレに近づいても、じっとこちらを見ていました。ある程度の間をおいて、ゆっくりと森に入って行ったとのことでした。

現地では、牛を襲うからと、牧場主たちからは嫌われ者で、個体数をどんどん減らしていて、絶滅危惧種とのことでした。

私達の植樹地域には多くの野鳥と動物が戻ってきてますよ。（飯野元理事談）

［お知らせ］今年もパンタナール植樹のボランティアを派遣予定です。ぜひ、多くの方の植樹支援をお願いします。